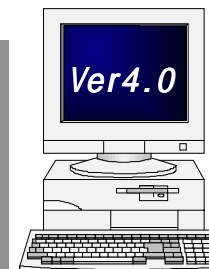
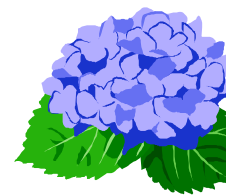


# 棚POWERインフォメーション

まもなく棚POWERがVerUP！今回はその特集です。

98.06.10 発行

Vol.14



I Concept  
サポートセンター

TEL(06)821-2571(代)  
FAX(06)821-2572

## 棚POWER95 Ver5.0

### ●フェイスングにアンドゥ機能が加わりました。

フェイスングウィンドウの左下にアンドゥボタンを新設。  
フェイスング中、直前の作業状態へ簡単に戻ることができるようになりました。  
最高10回までさかのぼることができます。  
また、この機能を無効に設定することもできます。  
(メイン画面の<編集>からも同じ操作ができます。)



### ●フェイスング中に作成中モデルを自動保存できます。

従来の一時保存機能に加え、フェイスング中に棚POWERが作成中モデルを自動で保存するようになりました。自動保存機能が働く間隔は最高10分まで1分おきに自由に設定できます。  
突然マシンがダウンしてしまった場合でも、簡単にモデルを復元できます。  
この機能も無効に設定することができます。

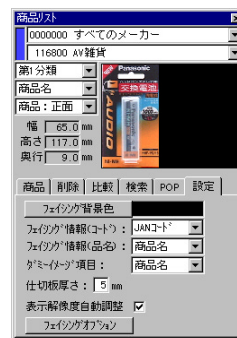


### ●フェイスング中にも商品情報のメンテナンスが行なえます。

これまでも陳列商品を[商品詳細]ボタンで選択することでイメージの登録状況の確認や売上情報のメンテナンスが簡単にできましたが、これに加えて商品情報のメンテナンス自体ができるようになりました。より効率的な作業を可能としています。

### ●イメージビューサイズの調整は棚POWERにお任せ。

これまでは商品リストで商品を検索しても表示されるイメージが小さすぎて何かと分かりづらかったことがあります。表示解像度自動調整機能を有効にすれば、商品サイズに応じて棚POWERがビューサイズを自動調整します。ほかにも商品情報メンテナンス機能で登録イメージを確認する場合などでも有効です。この機能も有効・無効の設定が自由に行なえます。



ここで設定！

### ●ポップアップメニューも充実。

フェイスングエリア内でマウスの右ボタンを押すと表示されるポップアップメニュー。機能ツールを非表示にして狭い画面をより広く使いたいときなどに便利ですが、これまでは商品配置の選択ができませんでした。Ver5.0ではこのメニューを追加。使い勝手をより向上しています。

### ●商品陳列時は棚の高さもチェックします。

商品陳列時、これまでは棚の高さ内におさまるかどうかのチェックを行なっていませんでしたが、Ver5.0ではチェックする・しないの設定が可能です。

### ●仕切板は一括して挿入・削除ができるようになりました。

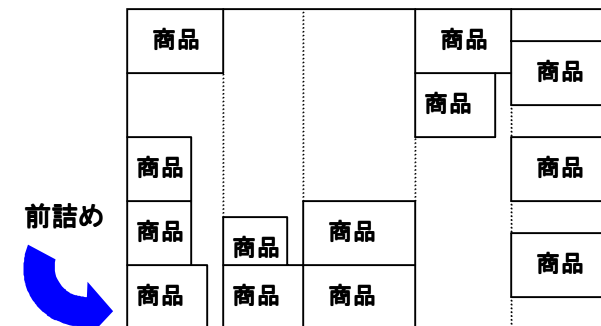
仕切板の挿入・削除を、棚を指定して一括で行なえるようになりました。全台を指定することもできます。陳列されたすべての商品の間に仕切板を挿入・削除したい場合などに大変便利です。

### ●プラットフォームでの操作性と再現度をアップしました。

後詰め



これまでのプラットフォームでは同じ列に違う商品を積上げる場合架空の段を設定していましたが、プラットフォーム2ではそのまま積上げることができます。配置モード、配置調整も選択でき操作性をアップ。



前詰め

前後均等

### ●陳列形態の変更が可能に。

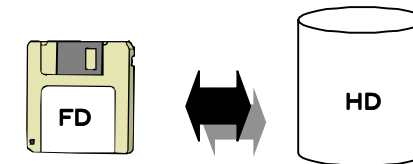
これまではいったん商品を陳列してしまうと、あとから棚種別の変更ができませんでした。Ver5.0では商品陳列済みの棚でも種別の変更が可能。既存モデルの編集時など大変便利です。

### ●追加変更棚割表を追加。

処理中モデルと基モデルを比較した棚割表の出力が可能です。何が追加され、何がフェイス変更、陳列変更、位置変更されたのか、商品ごとにマークをつけて出力しますので大変分かりやすくなっています。

### ●内部・外部モデルの一括入出力機能を追加。

内部・外部に保存されているモデルをまとめて入出力できるようになりました。たとえばモデルの受け渡しを行なう場合、送る側・受ける側でのそれぞれの作業が効率的に行なえます。



### ●エクスポート機能に「JANテーブル作成機能」を追加しました。

商品情報や売上情報のエクスポート機能で、簡単にJANテーブルを作ることができます。たとえば、仮置ウィンドウのファイル読み込み機能や、JAN指定でのマスターエクスポート・インポート時に活用でき、作業を効率化できます。

### ●サーバーメニューを充実。

支店展開アップロード、CSVファイルアップロード[分類・商品情報・売上情報]、マスター一括削除[商品情報・売上情報(店指定)]、売上マスター内登録件数表示の各機能を追加しています。

### ●新仕様ハンディターミナルに対応。

オプションとして新タイプのハンディターミナルを発売しています。あらかじめ棚POWERに登録されている商品情報マスターをハンディ側に送信(この場合JANテーブルのみ)しておけば、マスターに未登録の商品をピックアップするとアラームで警告してくれます。

※記載の内容は事前の予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

次は“陳列量”についてです。この“陳列量”でまず確認しなければならないことは最低陳列量を一定に保つということ、そして最大陳列量をいくつにするのか、ということです。

一般的な計算式は、

$$\text{最低陳列量} = (\text{リードタイム} - 1 \text{日}) \times \text{1日平均販売数量}$$

リードタイム 発注してから入荷し、値付けされ、店頭陳列されるまでの所要日数。  
 リードタイム - 1日の意味 入荷1日前の陳列量。

$$\text{最大陳列量} = \text{最低陳列量} + (\text{1日平均販売数量} \times \text{発注サイクル期間})$$

発注サイクル期間 たとえば週間補充制なら7日間。

となります。また、最低陳列量を決める場合、販売数量の“バラつき”を考慮した決め方があります。一般的には、この“バラつき”を「標準偏差」として求めます。「標準偏差」の式は、

$$= \sqrt{\frac{\sum (i - \bar{x})^2}{n}}$$

・・・標準偏差    i・・・各数値    n・・・資料数  
 ・・・合計    ・・・平均値

この「標準偏差」を物差しとして、平均値から何倍離れているかということによって、ある一定の確率で、その数字が入るかどうかがわかることができます。理論的には、

- 平均値 ± 1 (標準偏差) の中に 68.27% のデータが入る。
- 平均値 ± 2 (標準偏差) の中に 95.45% のデータが入る。
- 平均値 ± 3 (標準偏差) の中に 99.73% のデータが入る。

とされています。この1、2、3(標準偏差の前の数字)を安全係数として使用しています。標準偏差を使った式は、

$$\text{最低陳列量} = \text{安全係数} \times \sqrt{\text{リードタイム} + \text{発注サイクル期間}} \times \text{標準偏差}$$

事例：ある商品の売上数量を2週間、毎日調べたところ次のようになりました。標準偏差を使った最低陳列量を計算してみましょう。

第一週	5	11	10	10	8	9	13	計66
第二週	10	13	8	10	9	9	15	計74

条件：調達期間 2日    発注サイクル 7日    安全係数 2  
 二週間の総売上数量 140    1日平均販売数量 10

各週の標準偏差

第一週	$(5 - 10)^2 = 25$	第二週	$(10 - 10)^2 = 0$
	$(11 - 10)^2 = 1$		$(13 - 10)^2 = 9$
	$(10 - 10)^2 = 0$		$(8 - 10)^2 = 4$
	$(10 - 10)^2 = 0$		$(10 - 10)^2 = 0$
	$(8 - 10)^2 = 4$		$(9 - 10)^2 = 1$
	$(9 - 10)^2 = 1$		$(9 - 10)^2 = 1$
	$(13 - 10)^2 = 9$		$(15 - 10)^2 = 25$

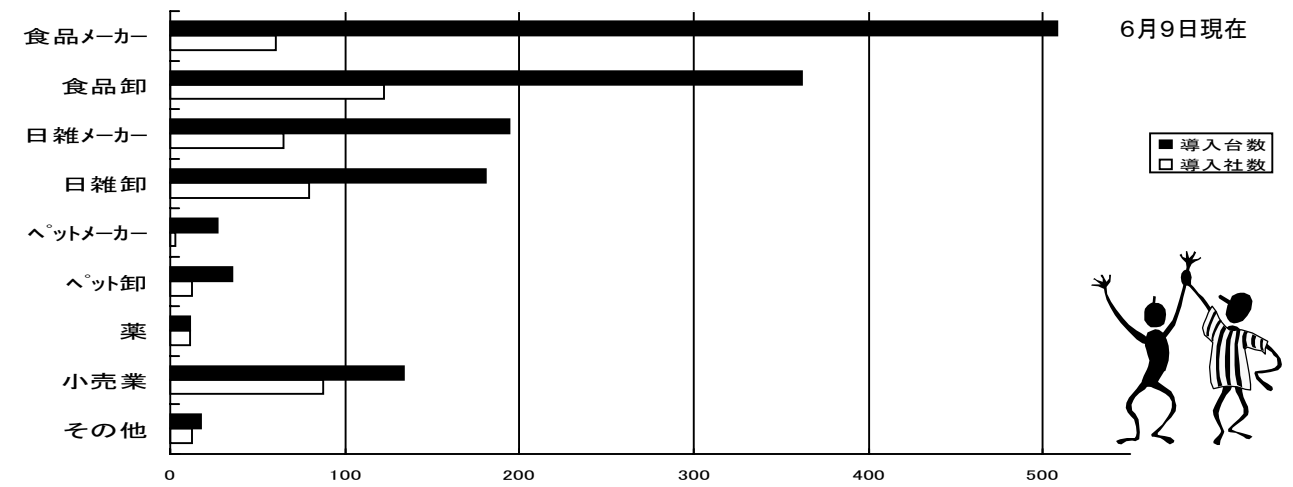
$$= \sqrt{\frac{\sum (i - \bar{x})^2}{n}} = \sqrt{\frac{80}{14}} = 2.39$$

$$\text{最低陳列量} = 2 \times \sqrt{2 + 7} \times 2.39 = 14.34$$

約14個あれば良いことになります。

以上が、計算式による陳列量の決め方の一つですが、それぞれの小売業によって考え方、計算方式が違いますので必ず確認してください。また計算式の答えが絶対的な数量であるなどと思わないことです。なぜなら商圏の環境は日々変化して固定的ではないからです。

棚POWER導入数【495社 1476セット】



今月30日をもって、これまで行なっておりました下記のサービスは終了します。

- ① Ver2.2から95版への無償バージョンアップ対応
- ② Ver2.2をお持ちのユーザー様が追加導入される場合の価格据置

これまでたくさんのお申し込みをいただきありがとうございました。7月以降、Ver2.2から95版へのバージョンアップをお申し込みの場合は、ご使用いただいている累積セット数に関係なく、1セットあたり100,000円のバージョンアップ費用が必要となります。また追加導入の場合も、580,000円から累積セット数に応じた割引率を適用した価格でご購入いただくこととなります。お申し込み期限はあとわずかです。追加導入をお考えの場合はお早めに。



バージョンアップ版をお届けするメディアはCD-ROMです。FDでの送付をご希望の場合は、お電話で結構ですのでサポートセンターへお知らせください。ただし、別途料金として10,000円(消費税別)が必要です。